

三到図書館 ニュース

- 📖 背表紙と私
- 📖 三到図書館のこれから
- 📖 分館からのお知らせ
- 📖 情報メディア室の紹介
- 📖 視聴覚資料貸出ベスト20
- 📖 付録：文献複写・携帯電話版OPACにつて



OBIRIN UNIVERSITY LIBRARY

背表紙と私

国際学部教授 中村 雅子



小さいときに、本棚に並んだ父の蔵書の背表紙を本が壁に当たるまで押してでこぼこにして遊んでいたらしい。証拠写真もバッチリ撮られている。それをまた父が帰ってくると背表紙ラインで揃えていたから、何回も遊べたのだと思う。ダメと言われた記憶がないのは、本好きの父が仲間を見つけたと思ったからだろうか。

アメリカ科の卒論で1960年代のアメリカの教育政策について書いたときに、東京大学の教育学部図書室で、ホコリをかぶった、しばらく誰も使っていなかったような雑誌を見つけて読むのが面白くて夏休みに通い詰め、その図書室のある大学院にすすみ、W. E. B. デュボイスの教育思想に修論でとりくんだときには、逆に駒場のアメリカ研究資料センターに通ってデュボイス全集を借り出し、彼の創刊した『クライシス』のマイクロフィッシュをリールをまわして読み、現像液の臭いは嫌いだったが、せっせとプリントした。

博士課程で留学したコーネル大学では、総合図書館のキャレル（書架の階にある個人用読書席で、机の前の2段の書棚に50冊まで置いておくことが出来た）で勉強した他に、アフリカーナ研究所図書室、教育系図書のある生命科学系図書館とロースクールの図書室をよく使った。ロースクールでは、堅牢な製本の法規集や判例集が並んでいるさまが圧巻だったが、館内のカフェのコーヒーとベーグルサンドがおいしいのも魅力だった。

桜美林大学の図書館をもっともよく使ったのは、もう10年以上前になるが、アメリカ研究資料センターの委嘱で「日本におけるアメリカ教育研究：1960～1991」というタイトルで約3000点の文献リストを作成し、研究動向の総評を書くという仕事をしたときで、1991年度の秋学期は授業時間の他

はいつも図書館の分館にいて、『国立国会図書館蔵書目録』『国立国会図書館雑誌記事索引』からカードを作ったり、各大学の紀要をチェックしたりという作業をしていた。

雑誌記事や論文を探したりコピーしたりという作業は、今では研究室でパソコンの電源を入れさえすれば、ホコリを拭いたり、マイクロフィッシュのリールをまわしたりしなくてもできるようになった。アメリカの最高裁の判例も重い本をどしりと机に開かなくても読めるし、いつでも読めるのでコピーをしておく必要もない。

このような電子化の恩恵を享受しつつ、それでも私は、書棚から本を取り出し、頁をめくる楽しみというのがどうしてもほしい世代（あるいはそういう種類）の人間であるとおくづく思う。書棚の間を歩いていて、ふと、ある背表紙が目につく。その本に呼ばれたような気がするときがある。桜美林の図書館で「こんな本があったんだ」とうれしくなるとき、誰が選書してくれた本なのだろうと思う。雑誌も、何十年間もの分が製本されて自分の目の前に並んでいるというだけでワクワクする（もう、押しはしません）。

創立以来の選書の集積として、現在の図書館の蔵書がある。とは言っても、図書館は本の倉庫ではなく、生きて使われてこそその本なので、そこをどうするかという課題があるだろう。蔵書数以上に、品揃えの良さと使いやすさ、学習、教育、研究に生かすためのサポートの充実が今後ますます重要になると思う。桜美林大学の図書館は分館も本館も開架式なので、誰でも本の森の奥深くまで突き進んでいけるのが魅力である。新入生の皆さんには、ぜひ、図書館で、本の声を聞き、背表紙に触って、宝探しをすることを勧めたい。

桜美林大学図書館 (三到図書館)のこれから

図書館長 宮下 幸一



桜美林学園は来年で創立60周年を迎えます。この間、三到図書館は一貫して学園施設の中核に位置して勉強に励む多くの学生に研究資料を提供してきました。現在、図書館には43万冊の図書をはじめ、多くの雑誌や視聴覚資料を所蔵しています。こうした資料は毎年1万数千冊の割合で増加しています。すでに数年前から現図書館は、物理的にも機能的にも限界に達しました。そのため逐次刊行物といった雑誌類は図書館分館を設けてそこに移し、視聴覚資料は図書館メディア室を別棟に設けてそこで利用に供しています。また比較的使用頻度の少ない図書は学外の倉庫に移して保管し、学生の希望を受けて取り寄せるという方法で対応しています。そのことによって皆さんには多少なりとも不便をお掛けしているといわなければなりません。

こうした状況を改善するために、学園は新図書館の建設を計画しています。完成の暁には分散している図書館機能を統合した新しい時代に相応しい図書館になることでしょう。これに合わせて、図書館のあり方を根本的に見直し、建物だけな

く中身も皆さんのニーズに適合するよう改革をすすめています。例えば、近年の利用状況を踏まえて学習図書の充実を図っていますし、視聴覚資料やオンライン資料の充実も図っています。また皆さんが最も希望している、図書館スタッフによるサポートサービスの向上にも取り組んでいます。この図書館にない資料を他機関の図書館からお借りして提供するというサービスもその一端です。しかし解決すべき課題も沢山あります。開館時間の延長や休館日の縮小、デジタル化資料の充実や電子媒体を介した図書館サービスなど、新しい時代に即した課題の克服にも取り組んでいます。またしばらくの間、若干のご迷惑・ご不便をおかけしなければならないこともあります。それは新館完成までの間、分館を過渡的に本館に統合する作業が今年度中に行われるため、閲覧室の狭隘や部分的な閉鎖を必要とします。皆さんのご理解とご協力をお願いするとともに、図書館に対する意見・希望を遠慮なく図書館スタッフに話していただき、図書館が皆さんの最も身近な存在として大いに利用されることを願っています。

分館統合に向けての図書館スケジュール

2005年2月	洋書を中心に約3万冊を学外の倉庫へ
3月	本館サービスカウンターの移動（閲覧室からロビーへ） 本館ロビーの整備 外国書の移動（洋書6F、中国書5F）
8月	和書を中心に約4万冊を学外の倉庫へ
9月	和書の移動（2F・4F・5Fに集約）
10月～	分館の逐次刊行物（雑誌・新聞）資料専用フロアとして1Fの整備作業開始
2006年2月	製本雑誌、約5000冊を外部倉庫へ
3月	分館事務室の移転と分館資料の移動（図書館分館閉鎖）
4月	図書館本館をメインにサービス開始

分館からのお知らせ

本館への移転・製本雑誌の貸出停止について

Information

図書館分館は1989年本館より分離し、雑誌、新聞、年鑑・白書などの逐次刊行物を所蔵、管理する館として開設されました。現在、雑誌2,400種、紀要2,300種、新聞46種、製本雑誌44,000冊（内25,000冊外部保管）、年鑑・白書2,800冊（内300冊外部保管）等を所蔵しています。16年間にわたって学内館において機能してきましたが、2006年度より学園の整備計画のもとで新館が出来るまでの間、再び本館へ戻ることになりました。そのため、本館、分館双方で準備を進めているところです。また、それに伴って分館資料の運用についても少し変更が出てきました。

これまで製本雑誌及び紀要は館外貸出を行ってきましたが、新宿キャンパスや通信教育課程の開設によって利用の対象が広がり、また、図書館間相互協力のもとで他大学からの複写依頼も日々増加し、常時館内に置く必要が出てきました。従って、2005年度よりこれまでの館外貸出を廃し、館内閲覧、複写対応となります。

未製本雑誌については従来通り貸出しますが、そのうち学術雑誌については新しいものだけでなく、バックナンバーの利用も多いので永久保存資料として製本を進めていきたいと考えています。一方で新しい情報源としてのオンライン・ジャーナルの充実も図っていきます。分館の移転に伴い、皆様にはご不便をおかけすることになりますが、サービスの向上に鋭意努力していきますので、どうぞご協力をよろしくお願いいたします。



図書館員が薦める一冊

佐々木 俊介（図書係）

佐藤忠男著「映画の真実；スクリーンは何を映してきたか」（中公新書）

映画館のスクリーンに映し出されるのは、たとえば時を越えた過去や未来世界で繰り広げられる愛と冒険の物語だったり、遠い異国の地で生きる人びとの生活だったりします。そしてそれらはフィクションだったり、ドキュメンタリーだったりします。そして私たち観客は、スクリーンに映し出される映像をみてさまざまな感情を覚えます。笑ったり、泣いたり、怒りを覚えたり、悲しんだり、怖がったりします。しかしそれら映画のなかの世界はどこまで“真実”たりうるのでしょうか？

映画評論家として知られる著者はこの本のなかで、黒澤明監督の不滅の名作『七人の侍』（1954）に描かれた、野盗の襲撃に怯える農民像が、まったくといっていいほど史実と異なっている、と喝破します。当時の農民たちは集落を維持するために、かなりの自治をもっており、ときには集落を守るために、野盗たちにもひるむことなく立ち向かっていた、という史実が、それを裏づけています。

では、なぜ黒澤明ほどの名監督が無力でひ弱な農民像を作り上げたのでしょうか？ それは、黒澤明監督が“史実を正しく描く”ということより、“面白い物語を作る”ということに全力を注いだからです。もちろん『七人の侍』に登場する農民たちの村や家屋敷、服装などは、どれひとつとしてゆるがせにしない、黒澤明監督の徹底的な完全主義で“ホンモノそっくり”に作られています。もちろん誰も“ホンモノ”など知らないのですが、観客にそうとしか思わせない完璧さには驚嘆の声をあげざるをえません。

しかし『七人の侍』は映画史に残る名作ではあっても歴史教材ではなく、あくまで黒澤明監督の創造した世界に過ぎません。しかしそうであったとしても、スクリーンに映し出されるその完璧な演出と造型を観たとき、私たち観客は「きっと近世の農民というのはこういうものであった」と知らず知らずのうちに納得させられているのです。

チェルノブイリ原発事故の影響を受けて、放射能に汚染された過疎の村に暮らす老人と若者の生活を映し出した『アレクセイと泉』（2003）という記録映画があります。この映画はドキュメンタリーの手法をとっていますが、それでもカメラが回っている以上、職業俳優ではない村びとたちの態度が、まったく通常の生活態度ではない、ということも言えるでしょう。いまでも私は、この映画は“真実”を伝えている、と思っていますが、それが“真実”であることを確認するためには、もう自分が現地へ行くしかありません。しかし「百聞は一見に如かず」といいますが、それはときには、「百聞」に伴う想像力と思考を停止させてしまう危険な行為である、とも言えるのです。

これからの大学生活で、みなさんはいろいろなことを体験して、やがて社会に出て行くこととなります。私たちはいま、人類がかつて経験したことのないデジタルでバーチャルな時代を生きています。フィクションのなかにも真実はあるでしょうし、ドキュメンタリーのなかにも虚構はあるでしょう。さまざまな媒体から発信される情報の洪水のなかで、なにが真実で、なにが虚構のなかを見極めるという力を持たなくてはいけない時代に生きているのです。桜美林の図書館にある多くの資料やわたしたち図書館員が、みなさんの“真実を見極める目”を育てるために、少しでも力になれたらと願っています。

（請求記号：CS/1616 5 F 文庫・新書棚）

図書館情報メディア室

図書館本館を正面にみて、向かって左側に2階建ての建物があります。ここの2階が図書館情報メディア室です。ここには、ビデオカセット（約4000点）、DVD（約260点）、CD・CD-ROM（約400点）、カセットテープ（約150点）、レーザーディスク（約100点）といった視聴覚資料が収めてあります。内容は日本語・英語・中国語などの語学教材、心理学・カウンセリングに関するもの、歌舞伎・オペラ・演劇などの芸術、美術館・博物館・古代の遺跡といったもの、NHKで放映された『映像の世紀』などの歴史資料や『プロジェクトX』、就職活動のための面接の実技指導もの、そしてもちろん日本や外国の映画などが豊富に集められています。こうしてみると学習面の資料だけでなく、教養・娯楽関係のものも大きな割合を占めています。肩のこらない♪とっつきやすいものが多いのです。これらの資料は、館内利用も館外貸出もできます。ただし「館内」といったシールが貼られているものについては、著作権保護のため館外貸出はできません。館内利用の場合、視聴できるブースがいくつか用意されています。同一資料を同時に三人まで一緒に鑑賞することができます。友達と来て一緒に楽しんでいく学生もたくさんいます。

また、情報メディア室には対面朗読室という、視覚障害の学生のための施設があります。朗読に使う資料は図書館のものでなくてもかまいません。情報メディア室の利用時間は、平日の午前9時から午後5時45分までで、土曜日は閉館です。ぜひ、一度お立ち寄りください。

2004年度（情報メディア室所蔵）

ビデオ 貸出ベスト20

Best 20

順位	タイトル	貸出回数
1	Chocolat	29
2	ライフ・イズ・ビューティフル	25
3	サイダーハウス・ルール	24
3	初恋のきた道	24
5	A.I.	20
5	エバー・アフター	20
5	グリーン・デスティニー	20
8	ダンサー・イン・ザ・ダーク	19
8	千と千尋の神隠し	19
8	あの子を探して	19
8	ロード・オブ・ザ・リング 前編	19
12	恋する惑星	18
12	天使の涙	18
12	シザーハンズ：特別編	18
12	至福のとき	18
16	恋人たちの予感：特別編	17
16	おもひでぼろぼろ	17
16	魔女の宅急便	17
16	カッコーの巣の上で	17
16	ロード・オブ・ザ・リング 後編	17

（貸出期間：2004年4月1日～2005年1月31日）

文献複写の申し込みについて

本学で所蔵していない資料の複写物（コピー）を取り寄せることができます。申し込みは図書館のホームページの「文献複写依頼」から行います。なお、大学院新宿キャンパスと大学院通信課程の方は、本学所蔵資料の複写物も取り寄せることができます。

ご利用いただける方

学生・大学院生・本学教職員

注意事項

1. 申し込みの前にならず図書館OPACを検索して、本学の所蔵の有無を確認してください。町田キャンパスの方は本学所蔵資料の複写は申し込みできません。
2. 複写料金、送料等は申し込んだ方に負担していただきます。
3. 申し込みは1文献単位でお願いします。特集記事など、同一巻号でページが続いても、著者や論題が異なれば1文献とみなします。

所 蔵	料 金 等	入手に要する期間
学 内	20円 / 枚 新宿キャンパス・通信課程在学生のみの取扱い	2日～5日程度
学 外	10～100円位 / 枚（機関によります）、送料等	2日～1週間

通信課程の方は、ご自宅までの郵送料を加算させていただきます。
繁忙期や所蔵機関が少ない資料の場合は、取り寄せの時間がさらにかかることがありますので、余裕を持って申し込んでください。

申込方法

1. 図書館のホームページより「文献複写依頼」へ進み、注意事項を確認後、次へ進みます。
2. IDとパスワードの入力画面になるので、ID（職員/学籍番号）とパスワードを入力して次へ進みます。
3. 希望する複写物のデータを入力します。データはできるだけ詳しく入力してください。
雑誌 / 図書名 省略せずに入力してください。
ISSN / ISBN 雑誌 / 図書固有の番号です。分かっている場合は入力してください。
論文名、著者名、巻号、出版年、ページがどうしても不明な場合は、「？」と入力してください。
巻号 たとえば30巻1号なら「30(1)」、通号100号なら「100」と入力してください。
出版年 西暦で2005年なら「2005」というように入力してください。
ページ数 終わりが不明のときは「521-?」と入力してください。
「速達での入手を希望する」「文献到着後直ちに連絡がほしい」等、受け取りに際して要望がある場合は、その旨メモに入力してください。新宿キャンパスの方で、町田キャンパスでの受け取りを希望する場合はその旨を、通信課程の方は住所（受け取り希望場所）を入力してください（複数件依頼時は初めの1件目に）。
連絡先にはメールアドレス（原則）、携帯番号等、速やかに連絡が取れるものを入力してください。
4. データ入力後、「依頼」ボタンで確認画面に進みます。間違いがなければ「確定」してください。この際、「申込番号」が表示されるので必ず控えておいてください。さらに続けて依頼する場合は「手入力画面へ」でデータ入力画面に戻ることができます。
5. 複写物が届いたら、町田キャンパスの方は分館入口の掲示にてお知らせしますので、代金と引き換えに受け取ってください。（取扱時間は図書館ホームページに掲載）。また、新宿キャンパスの方は新宿キャンパス窓口で、通信課程の方は郵送で受け取ることができます（それぞれ代金は所定の方法で請求させていただきます）。

携帯電話版OPACについて

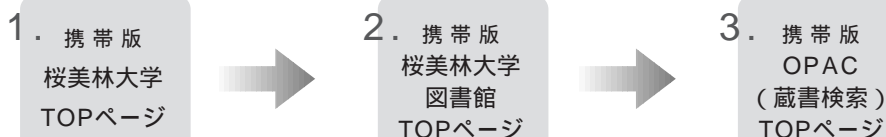
図書館では2004年秋から、携帯電話版OPAC（蔵書検索）の提供を開始しました。

携帯で図書館の資料をいつでもどこでも検索することができます。貸出中の図書の予約、自分が借りている資料や予約している資料の確認もできます。ぜひ、ご利用ください。

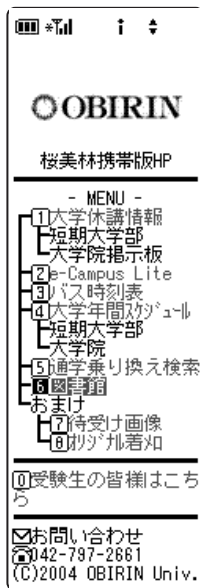
注意事項

借りている資料の貸出期間の延長処理、パスワードの変更は携帯版OPACではおこなえません。貸出期間の延長処理などは、パソコンから従来のOPAC（図書館HPから利用できます）へアクセスしておこなってください。

アクセスの流れ



利用方法



携帯版 桜美林大学 TOPページ

携帯版桜美林大学TOPページは下記のアドレスです。

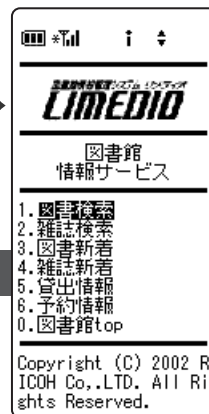
<http://fmsvr.obirin.ac.jp/>

携帯版桜美林大学図書館TOPページへは、メニュー6番の「図書館」を選択してください。



携帯版 桜美林大学図書館 TOPページ

携帯電話版OPAC（蔵書検索）へは、メニュー1番「蔵書検索」を選択してください。



携帯版 OPAC（蔵書検索）TOPページ

1. 図書検索
2. 雑誌検索
3. 図書新着
4. 雑誌新着
5. 貸出情報
6. 予約情報
0. 図書館top

図書の検索と予約ができます
雑誌の検索ができます
最近7日間の新着図書を確認できます
最近7日間の新着雑誌を確認できます
現在借りている資料と返却日の確認ができます
現在予約している資料の確認ができます
携帯版桜美林大学図書館TOPページに戻ります